

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173600420), 法人名 (社会医療法人 延山会), 事業所名 (グループホームCoCoすみかわ), 所在地 (北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号), 自己評価作成日 (令和5年1月31日), 評価結果市町村受理日 (令和5年4月13日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=0173600420&SVC=0001096&BJN=00&OC=01)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年3月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居定員が6名ということもあり、家庭的な雰囲気の中で介護理念である「その人らしくほのぼのと」をモットーに安心して穏やかに楽しい生活を送っていただく事ができるよう、入居者の状況変化を把握し、様々な可能性を考慮し試行錯誤しながら入居者本位の対応を心掛けている。管理者は医師で協力病院が併設しており、毎週3回の看護師の訪問のほか日常的に健康面に関する相談が出来る体制にあり、健康管理において安心感を持っていただけではない。入居者の身体機能の維持については、併設老人保健施設の理学療法士、食事の嚥下状態については併設病院の歯科医師による評価のほか、定期的な歯科衛生士の訪問による口腔ケアについてのアドバイスをいただいている。また、食事形態や栄養についても栄養士に相談できるなど、医療はもとより、その他の職種と連携したサポートが可能な体制になっている。活動面では、新型コロナの感染対策により現在その機会は減少してはいるものの通常は、老人保健施設のサークル活動や行事への参加も可能で、入居者の活動に選択の幅があり、定期的に季節感のある行事を計画し、ご家族と協力して外出の機会作りを努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は苫小牧市で最初のグループホームとして平成12年に開設している。道路の向かい側に母体である医療機関があり、医療面、非常時、研修等で協力体制が得られ、利用者や家族のみならず職員の安心感にも繋がっている。地域とは開設時から良好な関係にあり、災害・緊急時の連絡体制は図解にし地域住民の役割を記載している。家族も協力的でベランダ越しの面会でも中の様子が分かり、職員からは常に利用者の状況説明があるので事業所便りには必要ないとの意見があり、現在は発行していないが、個別に写真とコメントを記した手紙を家族に用意して渡している。日常では、車椅子の利用者も一緒に落ち葉拾いに参加、周辺の散歩やベランダでのお茶会、畑作業等で外気に触れ、少し足を延ばしドライブで錦大沼公園や港に出かけリフレッシュしている。6名の利用者と職員が一ツ屋根の下で家族の様な存在として暮らしている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes like staff understanding user needs, staff and user interaction, user independence, staff support, user outdoor activities, user safety, and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念と基本方針を掲示し、ケアに迷った時には理念に立ち返り介護実践に活かしている。その人の身になって考える姿勢を持ちつづけるよう努力している。	開設時に職員による基本理念と介護理念を策定し、事業所内に掲示している。さらに理念を踏まえたモットー(その人らしく ほのぼのと)も掲げ実践に努めている。会議等で理念に沿った支援ができてきているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前(コロナ前)よりは機会が減ってしまっている。	地域交流は控えているが、回覧板で情報を得て資源回収の協力、介護相談や実習生を受け入れている。市共催の介護の日には「えがおの花咲く写真展」に参加し、利用者と職員の笑顔が、大型商業施設に展示されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事自体が減少・縮小となっており、コロナ禍でどのような形で貢献できるのか考えていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は運営推進会議内でサービス評価を行った。推進委員と連携しながらサービス向上へ取り組んでいきたい。	コロナ禍により書面会議とし、利用者状況や職員の活動、事故やヒヤリハット、苦情等の有無、行事内容、感染症関連等を議事録にまとめ、推進委員からの意見や提案を運営や業務の向上に生かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やオンライン研修で指導を受けたり情報交換の機会がある。直接顔を合わせなくても日常的に連携し、相談にのってもらえる関係ができている。	行政との関わりは副施設長が担い、感染症関連や各種報告、介護保険認定時や提出物等の事案に対して、窓口担当者と情報や意見交換が行われている。市から定期的に行われている運営指導の連絡が届いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人事業所合同の抑制廃止委員会が設置され、日々のケアについて振り返ることができる。また、法人・ホーム内での研修も定期的に開催し勉強できる機会を設けている。	法人主催の適正化委員会は毎月行われ、研修会も2回開催している。参加した職員からの伝達で職員の共通理解が図られている。マニュアルも整備し、業務上でもミニ勉強会が行われ正しい理解に繋いでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人事業所合同の抑制廃止委員会が虐待防止検討委員会を兼ねている。集合型の研修は行っていないが、資料を回覧する形で知識の習得を励行する他、虐待の芽を発見するためのチェックを個々に実施し意識の向上を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中には成年後見制度を利用されている方もおり、こまめに連絡・報告をするように努め、良い関係性が築けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて細かく説明している。改定があった際には、家族会や個別で説明を行うほか文書で同意していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の集まる機会が減少している。面会時に入居者の様子の他、意見・要望を伺うように努めている。	家族とは開設以来、良好な関係を保っている。ベランダ越しの面会時や電話等で利用者の状況や事業所の現状を伝え、家族からの相談等に対しても速やかな対応をしている。家族には個別の写真とコメントを記した手紙を用意している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	次年度の年間活動計画を作成する時、月次のスタッフ会議で職員の意見や要望を聞いている。	職員は業務の中や会議で意見や提案を述べているが、会議前はシート紙に記入してもらうなど、全員の意見が把握できている。上司は、職員にメンタルチェックを行い、働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回は人事考課面接を行い、スタッフが目標を持って就業できるようにしている。また、毎月スタッフの休日希望を聞き、シフト調整を行うことで働きやすい環境に留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・集合研修の機会は減少しているが、資料を回覧したりインターネットを活用した研修機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会で研修機会や意見交流の機会があったが、コロナ禍で少なくなってしまう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人を訪問し要望・希望を伺ったり、ホームを見学していただく等の機会を作り入居への不安を軽減することができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時にホームの見学やご家族が不安に思っていることを伺い、スムーズにサービスを提供できるようにしている。また、明るく笑顔で対応することに気を付け、話しやすい雰囲気に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・入居者がおかれている状況や要望等を伺い総合的に判断するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を把握し日常生活で自立できるような働きかけをしたり、職員と一緒に行うことで安心感を得ることができるように気を付けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の情勢もあり、十分とは言えない状況が続いている。ホーム内での生活の様子を共有し、共に支えることができるように相談している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の新型コロナウイルス感染者数に気を付け、直接面会していただく機会も設けた。コロナ禍ではあるが可能な限り、屋外へ出かけたり、買い物をする機会を作っていく。	短期間ではあるが、対面を実施している。現在は、家族や友人、知人と窓越しの面会となっている。利用者から馴染みの人や場についての要望は聞かれないが、職員は昔のことを聞き出し、大切な思い出を共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が回り合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入してお互いの会話を繋げたり、トラブルにならないようお互いの場所を変えたりしながら支援している。他者の使用したコップを下膳して下さる入居者もあり、関係性は築けている様子が伺える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退居となった場合も関係は継続している。退居後もグループホームの花壇の手入れをしてくださる家族もあり、必要に応じ相談・支援できる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話や表情、生活の様子・変化を見守りの中で確認するようにしている。	職員は常に利用者の動向を把握し、表情が気になるときは熱を測るなど要因を究明している。誕生日はリクエストメニューにするなど、要望は食事のことが多く、献立に反映して満足度を上げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の医療機関や施設から情報を得るようにしている。また入居時にはセンター方式のシートを活用して細やかな情報を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や言動をアセスメントシートに記入することで現状を把握できるようにしている。申し送りやノート、スタッフ会議等で情報を共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話等でご家族の意向を確認しながらサービス計画書を作成している。スタッフ会議等で検討した内容をサービス計画書へ反映できている。	介護計画の立案時は、関わりから得ていた利用者や家族の意向を重視して職員間で検討している。モニタリングやアセスメント、医療従事者の所見を参考に、現状に沿った支援目標を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートの特に注意すべき所はボールペンの色を変える等で分かりやすくしている。もっと、発言や言動、気づきや工夫が記載できれば良いと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じ、併設病院や老健施設の専門職への相談や、総合相談センターや居宅介護支援事業所を含めた機能の連携により多機能化され柔軟な支援ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防上可能な範囲で、再び町内会の夏祭りやコミセン祭りの行事に参加するなど楽しむ機会を作っていきたい。防災上も協働の機会を再開していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は管理者を兼務している。専門医への受診が必要な場合には、希望される他の医療機関を紹介する等、適切な医療を提供できる体制にある。受診や往診の結果については、ご家族へ伝達し不安や疑問点が少なくなるよう配慮している。	母体の医療機関から月1回の往診と看護師が定期的に健康チェックで来訪し、医療的支援がスムーズに行われている。専門医への受診は家族と協力して支援し、健康状態を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回程度、併設病院から看護師の定期的訪問があり、日々の変化や医療的なケアの相談をすることができる。定期訪問以外でも、必要時はいつでもアドバイスが受けられ、臨時の訪問や受診への支援等連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子等の情報を提供することで入院時の負担が少なくなるようにしている。入院後も定期的に訪問し、病状の変化を医師、ご家族、及び医療ソーシャルワーカー等と連携し早期退院に向けて検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重篤化した場合の対応や看取りに関する指針を説明している。ご本人とご家族の希望を伺い、主治医を含め対応可能かどうか相談するようにしている。また、病態に応じ資料を準備し学習するようにしている。	重度化や看取りの対応は、入居時に指針で利用者や家族に説明をし、意向確認後に同意を得ている。職員は毎年、終末期介護の研修で学びを深めており、重篤時はぎりぎりまで尊厳ある支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修等を実施している。今年度はAEDの使用方法についての研修を行った。緊急時に向け、実践力を高めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には近隣住民のほか、町内会の交通防災部の方にも参加していただいている。訓練を繰り返すことでマニュアルを整備・変更したり、誘導方法等の実践力を養っているが今年度は中止し、内部での実施となった。	令和4年6月に消防署の指導の下、系列事業所と合同で地震後の火災発生として日中想定避難訓練と9月に自主訓練で夜間想定訓練を実施し、課題は次回の訓練に生かしている。非常時は地域住民に協力を依頼している。避難場所は母体の医療機関とし、災害時備蓄品も随時用意をしている。	利用者は防災頭巾を被って訓練に参加するなど、防災意識を高めているが、さらに避難場所までの実践的訓練や入浴時など様々なケア場面での対応、考えられる自然災害の対処等を検討しているので、その実行に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時や入浴時はもちろん、一人ひとりの個性に応じて声がけをするように工夫している。	運営規程に、人格を尊重し親切丁寧を旨とし責任を持って接遇することを謳っており、職員はその実践に努めている。利用者に関しての伝達時や個人書類の取り扱いが適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフから活動を促すだけでなく、自分でも決定できるような声がけをするように心がけている。意思疎通が難しい方は、行動や表情で判断するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの思いを大切にしながら支援している。職員都合、業務優先にならないよう寄り添いながらケアを実践していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択、乳液や化粧水の使用等、ご本人の意向に添った対応ができる。髪や爪の手入れ等、出来ない所は支援するようにしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を伺いながら少しでも喜んでいただくことが出来るようなメニュー作りをしている。食事の準備、片付け等の機会を増やしていきたい。	昼食のみ母体の医療機関から届いている。献立は利用者の食欲が出るような内容になっている。時には畑で収穫したジャガイモを芋団子にしたり、ホットケーキを作り、また、出前や持ち帰りなど目先を変え、楽しめる食事作りが行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はアセスメントシートに記入し確認するようにしている。好みに応じてメニューを変更したり、刻み食・ミキサー食等、食事形態も変更できる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他、1か月に1～2回歯科衛生士による口腔ケア、専門的な相談・アドバイスを受けることができる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで自己排泄ができるように支援している。アセスメントシートに記入することで職員間で共有し、個々に応じたタイミングで声がけするようにしている。	自立している利用者もいるが、2人介助で車椅子から移乗してトイレへ、声かけ誘導を行うなどトイレでの排泄を基本としている。夜間のみポータブルトイレを使用、衛生用品の必要時は職員間で検討するなど、それぞれの形態に合わせて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アセスメントシートで形状、最終排泄日を把握し下剤の加減を行っている。運動する機会が少なくなっているので、支援方法を工夫していきたい。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日設定をさせていただいているが、体調や入浴拒否等、また希望に合わせて柔軟に対応ができる。	入浴は午後から週2回を基本に、湯加減や同性介助、シャワー浴等の要望に応じて支援している。拒否があるときはタイミングを見計らったり、翌日にするなど柔軟に対応している。2人介助も行いながら殆どの利用者は湯船で寛いでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に応じ休息したり静養することができる。居室の日差しや温度の調節も行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更、追加があった時には、申し送りノートに記入して周知するようにしている。都度、薬情を確認し、服薬時には声出し確認、チェック表への記入し誤薬しないように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍ではあるが、掃除や洗濯、民謡が好きな方には映像を流したり、音楽を聞いたり、本を読んだり、歌を唄ったりと一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出支援は減ってしまった。ベランダで外気に触れたり、近隣の散歩に出かける等、出来る範囲で支援している。外出する機会を増やしていきたい。	人通りの少ない時間帯に公園を散策、病院周辺の桜や近所の庭を眺めながらの散歩、ベランダでお茶会をしたり、畑作業、外来受診等で外気に触れている。時にはドライブで錦大沼公園の花菖蒲を觀賞、港を見学後にソフトクリームを食している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける機会を持つことができなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた時や必要に応じて電話をかけるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西側には大きくベランダがあり、畑の花や作物を楽しむことができる。行事や季節に合わせ、壁面や棚に飾り付けを行ったり、職員と壁面工作をする機会がある。季節感を感じながらゆっくりと過ごすことができる空間作りをしている。	6人の利用者は職員の支援の下、心地良い生活空間の中で自分のペースで過ごしている。ベランダ越しに畑の野菜や花々を楽しむことが出来ている。利用者と一緒に制作した季節飾り等がほのぼのとした雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夏季はベランダに椅子を設置して外気に触れることができる。リビングにはソファがあり、お好きな場所で寛ぐことが出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使用していた家具を持ち込んでいただいたり、自分で制作した飾り、家族との写真等を掲示することで今までの馴染みの暮らしが継続できるように支援している。	居室にはクローゼット、洗面台、ナースコールが備えられている。ベッドやダンス、テレビ、家族写真など馴染みの物が持ち込まれ、安心感ある場所になっており、利用者にとって居室は休憩や寝るの場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、各所に手摺りを設置している。トイレや居室の案内をさりげなく表示することで、出来ることや分かることを日常生活の中で見出し、一人ひとりが安心して自立した生活を送ることができるようにしている。		